

Ⅱ 本県の都市を取り巻く環境

1 本県の現況

(1) 地形と気候

本県は、山地が多く平地が少ない地形的な特色を持っており、変化に富んだ地形や自然が大分の景色の美しさを生み出しています。

県の南部は九州山地の一部にあたり、中部から北部は瀬戸内陥没地帯の一部で、広い阿蘇溶結凝灰岩火山地帯となっています。また、東南部では、リアス式海岸が形成されています。平地は瀬戸内沿岸などの河口部が中心であり、その他に山間の河川沿いに小盆地が点在しています。

九重火山地域を中心とする火山地帯は、高い山岳、変化に富んだ山容、原生林などの森林資源だけではなく、別府・湯布院・湯平・長湯をはじめとする県内各地に点在する温泉などの恵みをもたらし、これらは湯量・泉質も豊かで、まさに世界に誇るものです。

河川は山国川・大分川・大野川・番匠川が本県を代表する1級河川であり、日田・玖珠地方には、有明海に注ぐ筑後川が流れています。これらは貴重な水資源であるとともに、独自の渓谷美をつくっています。

本県の気候は全体に温暖であり、気候区分は、北部は年降水量が1,800mm以下、冬季は曇りがちとなっています。東部は気候で、年降水量が1,800mm以下、冬季の天候は良いです。南東部は年降水量が1,800mm以上であり、山岳地域は特に降水量が多いです。西部は、年降水量が1,800mm以上であり、夏季に大雨が多く、冬季には乾燥した晴天が続きます。



■大分県の地形

（２）都市の沿革

本県の県土は、山地が多く平地が少ない地形的な特色や旧藩政などの歴史的な成り立ちを背景として、都市も県内に分散して立地しており、連担している地域が少ないのが特徴となっています。

各都市は、海岸線や河川流域に多く位置しているため、水や緑、田園などの自然が豊富であり、それぞれに固有の多様な歴史文化を有しています。

本県の歴史を振り返ってみると、江戸時代には、小藩分立を背景に県内各地に藩や他国の領地、荘園、天領が入り乱れ、それぞれが置いた城や館などを中心にして独自性の強い都市活動が行われてきました。

明治以降の県内都市は、明治 22 年に行われた市制町村制の施行に伴う「明治の大合併」や昭和 28 年の町村合併促進法による「昭和の大合併」、さらに平成 11 年から始まった「平成の大合併」などを経て、明治 4 年当時 1,818 あった市町村は、現在の 18 市町村となっています。

戦後以降は、戦災復興事業や大分市や別府市を中心とする昭和 39 年の大分地区新産業都市の指定を契機に、工業的な発展を遂げますが、同時に一村一品運動などの施策により県内各地の個性を活かした産業が育成されています。

本県の都市には、このような地形や歴史を背景とした分散型という特徴があるため、都市づくりの単位となる都市計画区域も分散しています。このため、都市計画区域内に居住している人口も全国平均に比べると少なくなっています

■大分県の面積と人口

項 目		全国		大分県	
全体 ※1	面積 (km ²)	377,971		6,341	
	人口 (千人)	127,094		1,166	
都市計画区域 ※2	面積 (km ²)	101,911	総面積の 27%	1,063	県面積の 17%
	人口 (千人)	120,103	総人口の 94%	962	総人口の 82%
市街化区域 ※2	面積 (km ²)	14,489		141	
	人口 (千人)	88,516	総人口の 70%	522	総人口の 45%
D I D 地区 ※1	面積 (km ²)	12,786		118	
	人口 (千人)	86,868	総人口の 68%	551	総人口の 47%

資料：※1 総務省「国勢調査（平成 27 年）」、※2 国土交通省「都市計画現況調査（平成 27 年）」

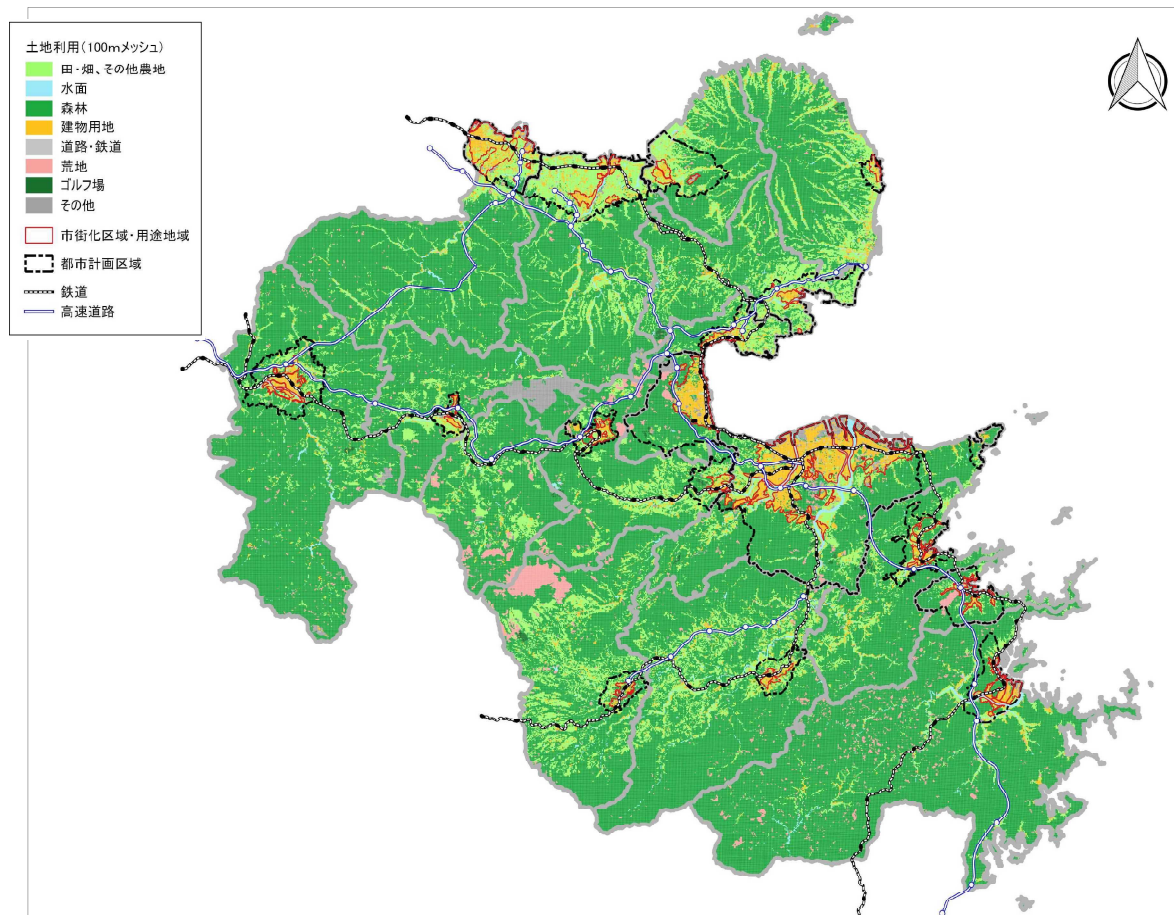
(3) 土地利用

本県は、山地が多く平地が少ない地形であり、土地利用も県土の約70%を森林が占めています。自然公園は30%に近く、全国平均の倍となっており、森林や自然公園など、緑が豊かな環境にあります。一方で、可住地は30%に満たない状況にあり、限られた県土の有効利用が必要となります。

このほか、耕地は全体の約10%で、海岸部の平地や河川沿いの盆地や山間地に分布しています。宅地は全体の3.2%にとどまり、道路などのその他の土地が16.3%となっています。

■県土の状況

	大分県	九州	全国
森林 面積割合	70.7%	62.5%	65.5%
自然公園 面積割合	27.5%	13.5%	14.9%
可住地 面積割合	28.4%	36.8%	32.9%



■土地利用現況 (国土数値情報、H26)

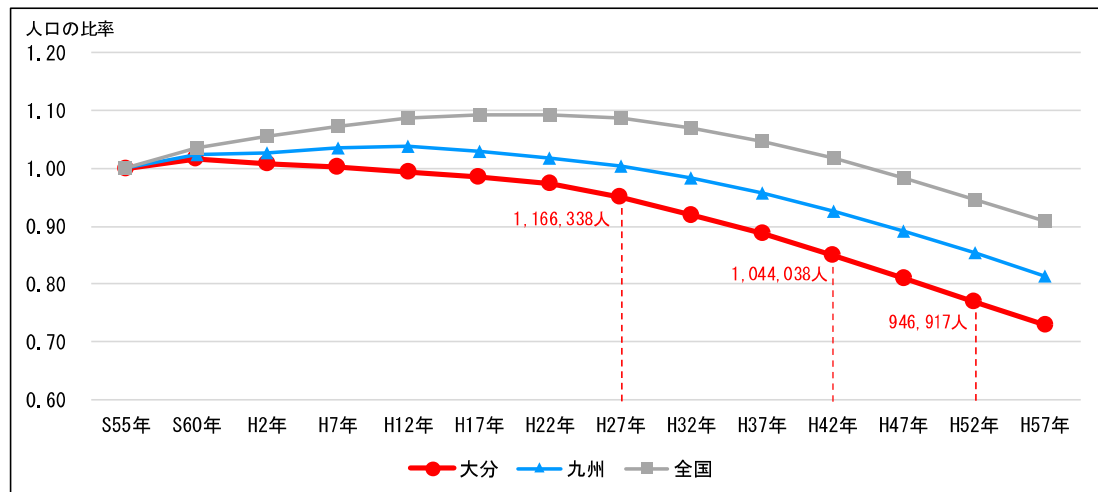
資料：国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調（H28）」、農林水産省「農林業センサス・農山村地域調査（H26）」
農林水産省「作物統計・面積調査（H28）」、環境省「自然公園の面積調査（H28）」、国土交通省「国土数値情報（H26）」

(4) 本県の人口と見通し

① 総人口の推移

本県の総人口の将来推計を見ると、平成 27 年の 1,166,338 人に対して、平成 42 年では 1,044,038 人、平成 52 年には 946,917 人となっています。

全国・九州に比べて加速度的に人口が減少していくことが予測されます。

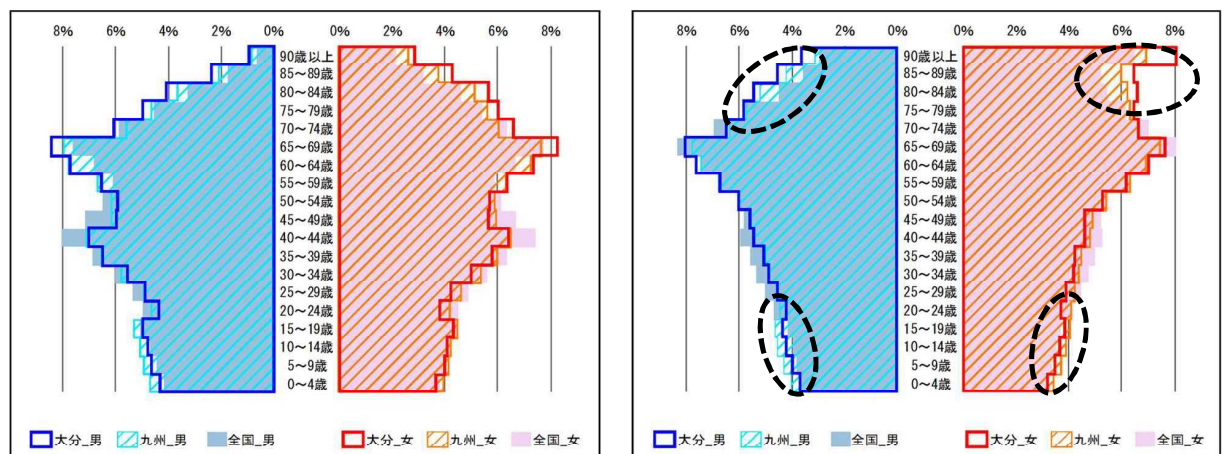


■人口の推移（S55 年の人口を 1 として比率を図化）

資料：総務省「国勢調査」、社人研「日本の地域別将来推計人口」

② 人口ピラミッド

人口ピラミッドを見ても、全国・九州よりも先行して少子化・高齢化が進むことが予測されます。

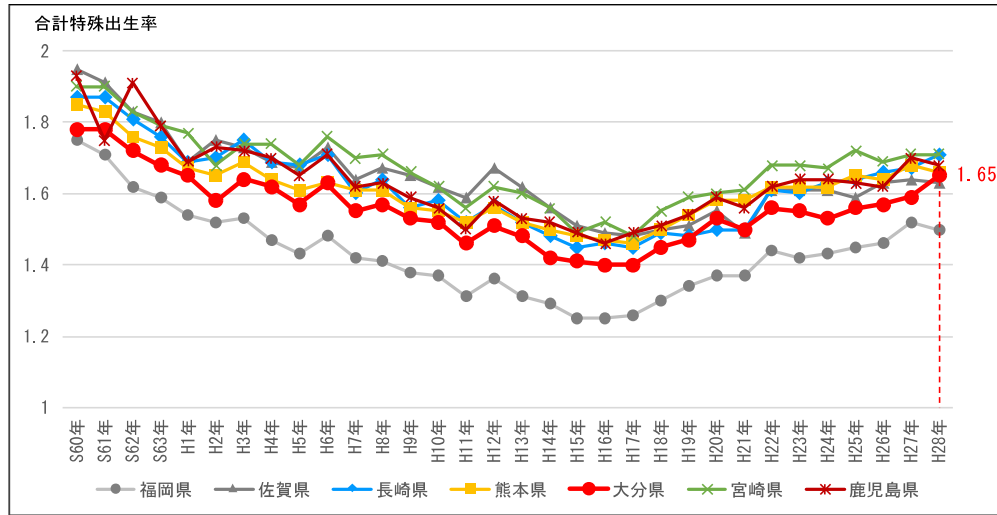


■人口ピラミッド（左側：S55 年、右側：H52）

資料：総務省「国勢調査」、社人研「日本の地域別将来推計人口」

③ 人口の自然増減

本県の合計特殊出生率は、平成28年1.65と近年上昇傾向にあります。ただし、本県は九州で2番目に低い傾向にあります。

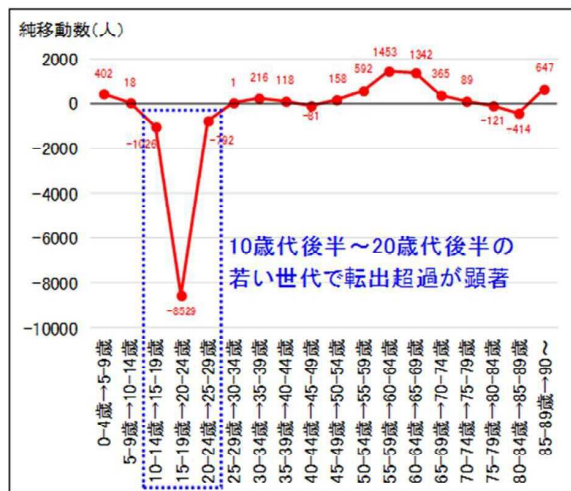


■合計特殊出生率の推移（九州地方の各県）

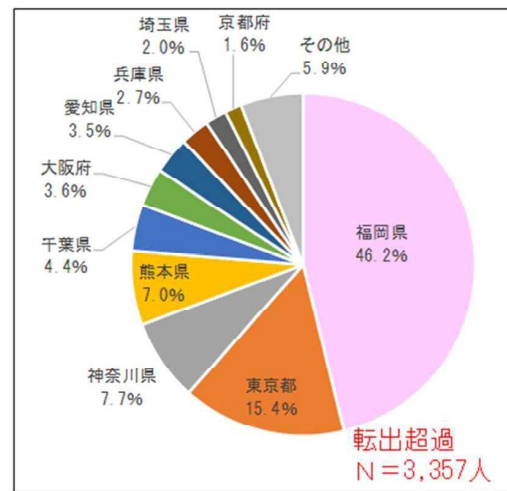
出典：厚生労働省「人口動態調査」

④ 人口の社会増減

本県では、10歳代後半～20歳代後半の若い世代で転出超過の傾向が顕著となっています。転出超過の場合の転出先は、福岡、東京・神奈川、熊本等となっています。



■大分県・5年間の年齢別準移動数(H22～H27年)

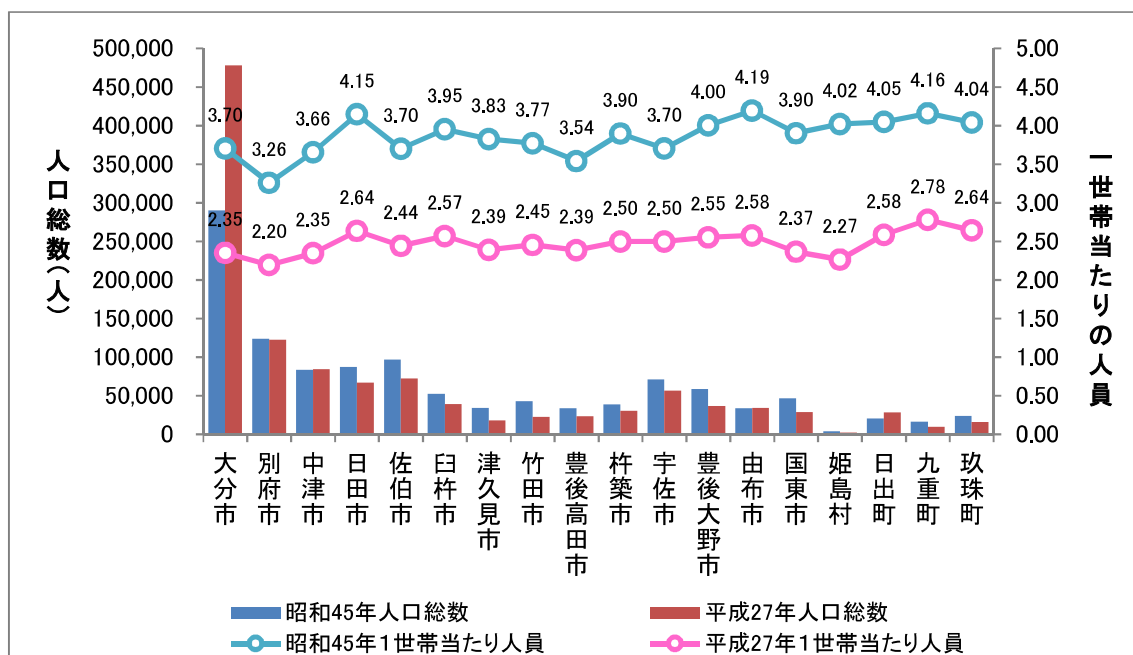


■大分県・転出超過の転出先割合(H29年)

出典：総務省「国勢調査」、総務省「住民基本台帳人口移動報告」

⑤ 市町村ごとの世帯数および世帯規模の推移

全ての市町村で、1世帯あたりの人員が減少しており、昭和45年では、最も1世帯あたり人員が高いのは由布市（4.19/世帯）、最も少ないのは別府市（3.26人/世帯）であったものが、平成27年で最も1世帯あたり人員が高いのは九重町（2.78/世帯）、最も少ないのは姫島村（2.27人/世帯）と、現在では最も高い九重町でも1世帯あたり人員が3人を割込んでいるなど、核家族化が進行しています。

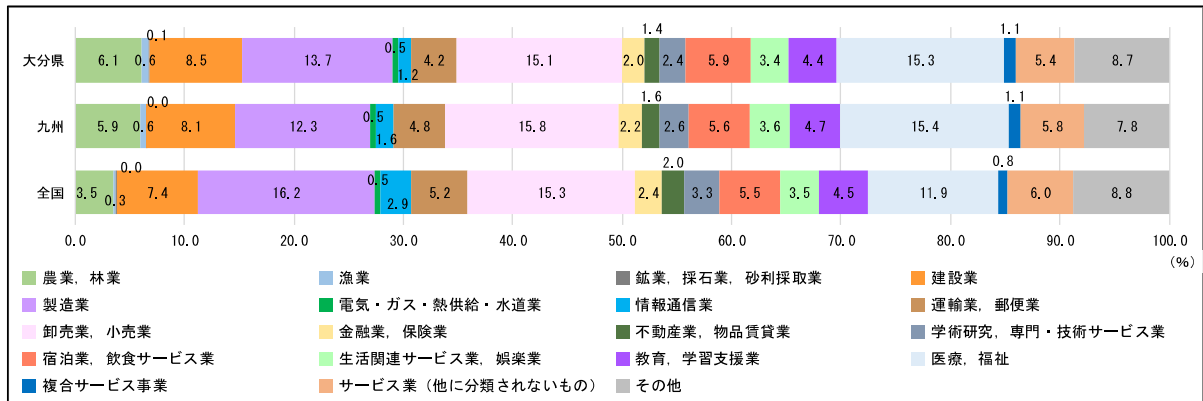


出典：総務省「国勢調査」

(5) 産業

① 全産業・産業別従業員数の割合

本県内で従事者が多い産業は、製造業、卸売業・小売業、医療・福祉となっています（おおむね全国・九州地方と同様）。「おんせん県」として有名な本県は、観光業に関連する「宿泊業・飲食サービス業」の割合が全国・九州と比較してやや高くなっています。



■全産業・産業別従業者人員数の割合（H28 年）

資料：総務省「経済センサス基礎調査」

② 稼ぐ力分析

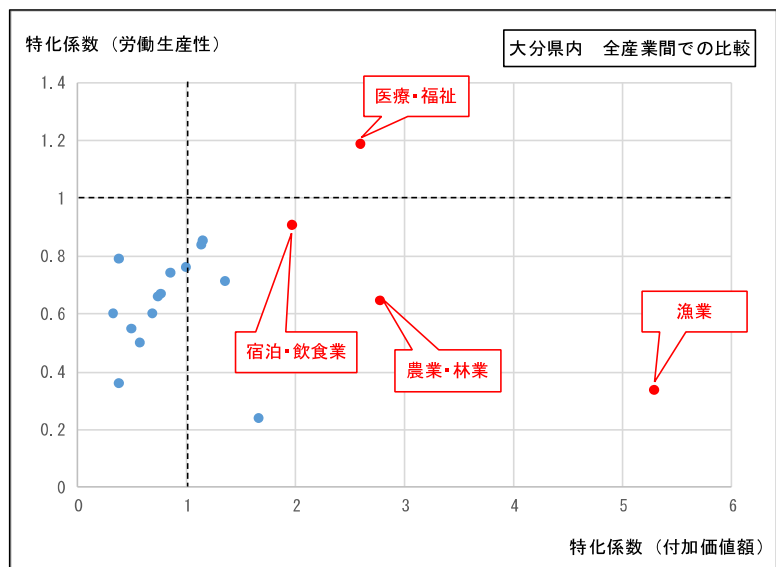
本県の稼ぐ力（特化係数）は、全国と比較すると、「医療・福祉」、「漁業」、「農業・林業」、「宿泊・飲食業」で割合が高くなっています。

特化係数：

地域の産業がどれだけ特化しているかを見る係数です。係数が1以上の場合、該当する産業が、他地域に比べて、平均よりも特化していることを示します。

付加価値額は、全産業の付加価値額に占める当該産業の付加価値額の割合で比較しています。

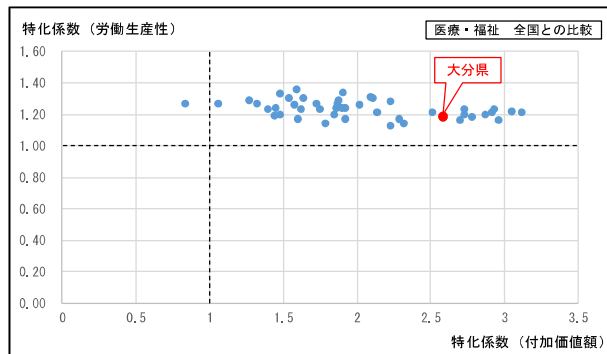
労働生産性は、付加価値額を従業者数で割って算出し、付加価値額と同様にして比較しています。



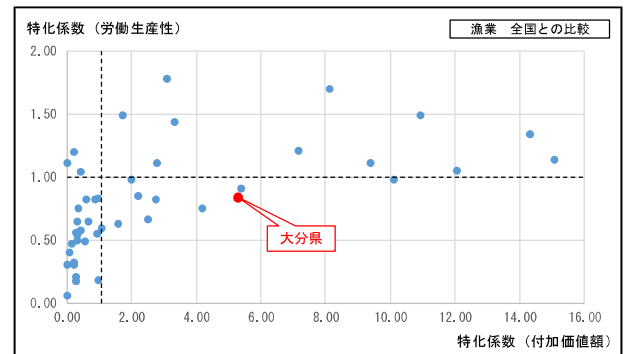
■大分県内全産業での比較

資料：RESAS（総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」）の再編集

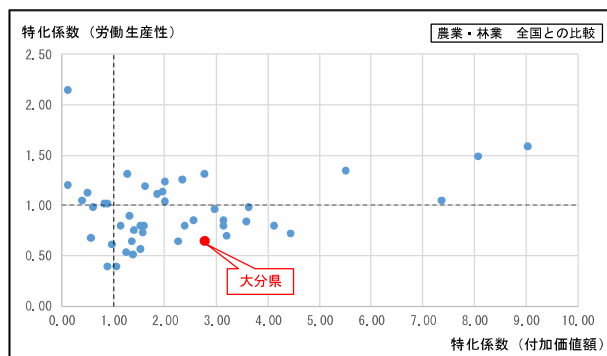
特に「宿泊・飲食業」（観光）の特化係数が全国の中でも高く、本県の特徴的な産業となっています。



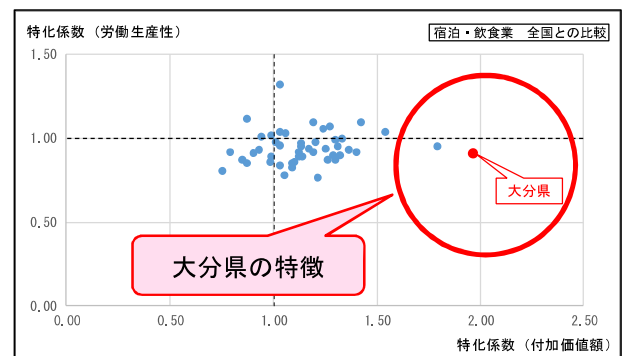
■大分県の稼ぐ力分析（医療・福祉）



■大分県の稼ぐ力分析（漁業）



■大分県の稼ぐ力分析（農業・林業）

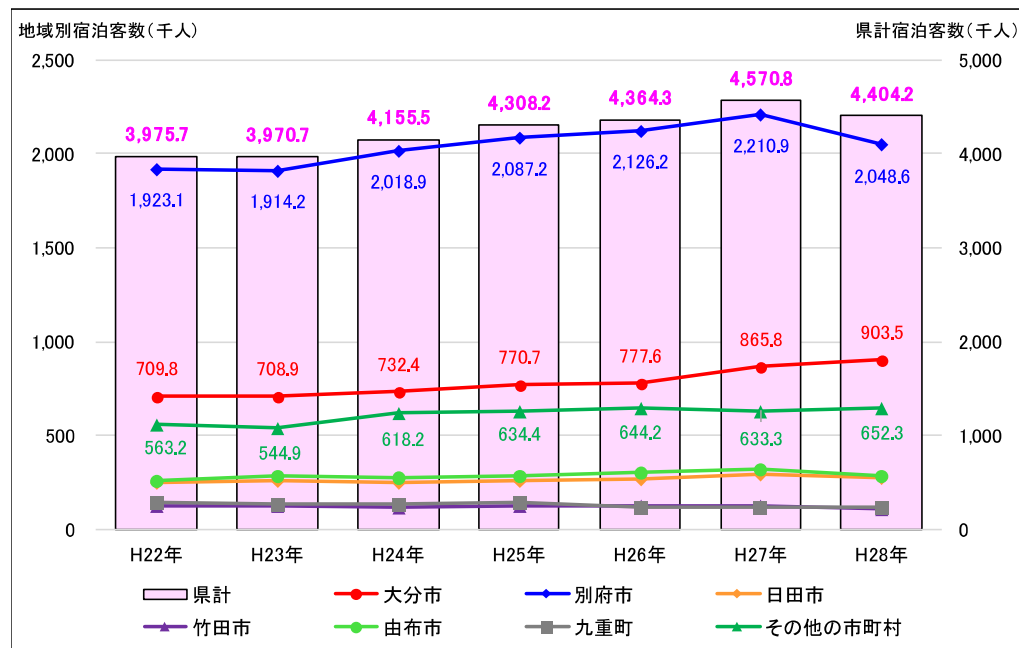


■大分県の稼ぐ力分析（宿泊・飲食業）

資料：RESAS（総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」）の再編集

③ 宿泊者数の推移

県内の宿泊者数は、概ね増加傾向にあり、近年は、年間 450 万人前後となっています。主要な宿泊先は、大分市、別府市、日田市、竹田市、由布市、九重町となっています。その中でも、別府市の宿泊者数は年間 200 万人を超えており、県内屈指の観光地となっています。

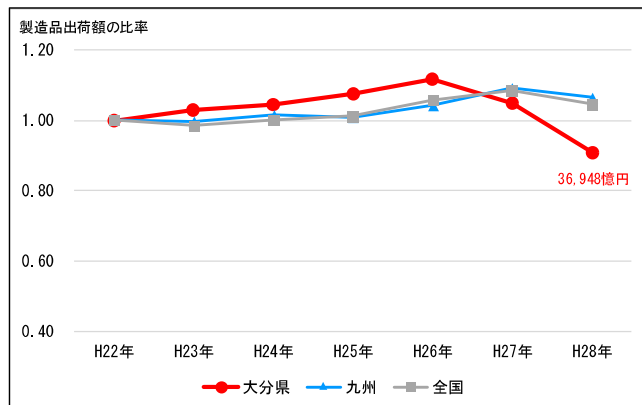


■宿泊者数の推移

資料：大分県「大分県観光統計調査」

④ 製造業・製造品出荷額の推移及び順位

本県全体の製造品出荷額は、全国の平均レベルとなっています。大分市の製造品出荷額は、全国1654地域中、第14位と高く（大分市沿岸部の大分コンビナートが県内産業をけん引）、中津市も第134位となっています。



■製造品出荷額の推移（H22年の値を1として比率を図化）

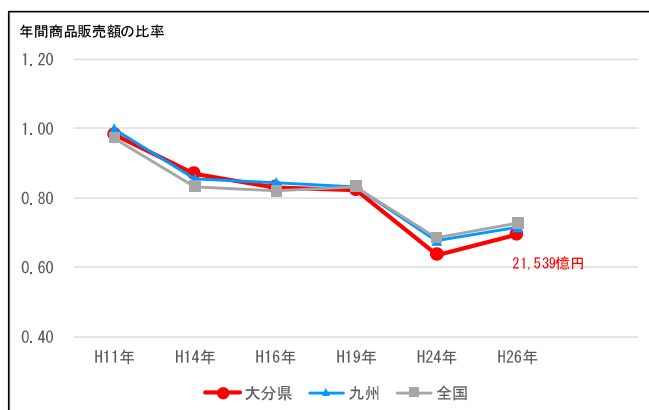
■製造品出荷額ランキング（H28）

	製造品出荷額 (百万円)	順位（全国）	県内 シェア率
大分県	3,694,883	26位／47都道府県	—
大分市	2,243,313	14位／1654地域	60.7%
別府市	9,124	1,240位／1654地域	0.2%
中津市	532,141	134位／1654地域	14.4%
日田市	116,343	521位／1654地域	3.1%
佐伯市	105,231	552位／1654地域	2.8%
臼杵市	74,402	660位／1654地域	2.0%
津久見市	54,732	761位／1654地域	1.5%
竹田市	3,964	1,392位／1654地域	0.1%
豊後高田市	62,621	716位／1654地域	1.7%
杵築市	60,250	729位／1654地域	1.6%
宇佐市	176,041	404位／1654地域	4.8%
豊後大野市	33,246	917位／1654地域	0.9%
由布市	24,095	1,006位／1654地域	0.7%
国東市	136,070	471位／1654地域	3.7%
姫島村	90	1,652位／1654地域	0.0%
日出町	46,658	817位／1654地域	1.3%
九重町	6,700	1,301位／1654地域	0.2%
玖珠町	9,862	1,232位／1654地域	0.3%

資料：経済産業省「工業統計調査」、総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」、大分県「安心・活力・発展プラン2015」

⑤ 小売業・年間商品販売額の推移及び順位

本県全体の年間商品販売額は、全国と比較すると相対的に低くなっています。県内では、食品産業が盛んで、農林水産業との連携が期待されています。



■年間商品販売額の推移（H22年の値を1として比率を図化）

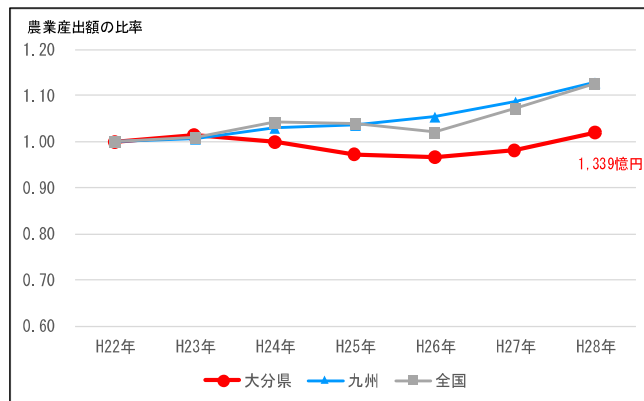
■年間商品販売額ランキング（H26）

	年間商品販売額 (百万円)	順位（全国）	県内 シェア率
大分県	2,153,984	37位／47都道府県	—
大分市	1,268,446	49位／1732地域	58.9%
別府市	153,054	321位／1732地域	7.1%
中津市	157,160	311位／1732地域	7.3%
日田市	91,720	482位／1732地域	4.3%
佐伯市	98,436	450位／1732地域	4.6%
臼杵市	51,116	700位／1732地域	2.4%
津久見市	20,524	993位／1732地域	1.0%
竹田市	32,120	850位／1732地域	1.5%
豊後高田市	24,128	948位／1732地域	1.1%
杵築市	27,649	903位／1732地域	1.3%
宇佐市	68,171	593位／1732地域	3.2%
豊後大野市	43,491	748位／1732地域	2.0%
由布市	35,303	829位／1732地域	1.6%
国東市	30,113	869位／1732地域	1.4%
姫島村	747	1,659位／1732地域	0.0%
日出町	28,285	899位／1732地域	1.3%
九重町	4,081	1,450位／1732地域	0.2%
玖珠町	19,440	1,007位／1732地域	0.9%

資料：経済産業省「商業統計調査」、大分県「安心・活力・発展プラン2015」

⑥ 農業産出額の推移及び順位

本県全体の農業産出額は、全国の平均レベルとなっています。竹田市の農業算出額は、全国1677地域中、第53位と比較的高く、トマトの生産高は西日本でトップとなっています。



■農業産出額の推移（H22年の値を1として比率を図化）

■年間農業産出額ランキング（H28）

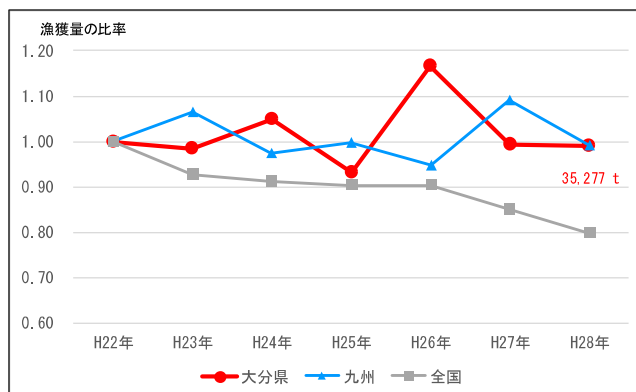
	農業産出額(推計) (単位：1,000万円)	順位（全国）	県内 シェア率
大分県	13,168	25位／47都道府県	—
大分市	793	367位／1677地域	6.0%
別府市	103	1,219位／1677地域	0.8%
中津市	636	461位／1677地域	4.8%
日田市	1,343	167位／1677地域	10.2%
佐伯市	396	681位／1677地域	3.0%
臼杵市	593	501位／1677地域	4.5%
津久見市	74	1,324位／1677地域	0.6%
竹田市	2,390	53位／1677地域	18.2%
豊後高田市	1,258	184位／1677地域	9.6%
杵築市	781	375位／1677地域	5.9%
宇佐市	1,258	184位／1677地域	9.6%
豊後大野市	1,169	208位／1677地域	8.9%
由布市	381	698位／1677地域	2.9%
国東市	700	422位／1677地域	5.3%
姫島村	0	—	0.0%
日出町	445	614位／1677地域	3.4%
九重町	464	595位／1677地域	3.5%
玖珠町	384	694位／1677地域	2.9%

資料：農林水産省「生産農業所得統計」

⑦ 漁獲量の推移及び水産業販売金額の順位

漁獲量は全国的には減少傾向ですが、本県ではその傾向は見られません。

年間水産業販売金額のランキングでは、佐伯市は599地域中 第9位（ブリ・ヒラメの海面養殖業など）、津久見市は第74位となっています。



■漁獲量の推移（H22年の値を1として比率を図化）

■年間水産業販売金額ランキング（H25）

	海面漁獲物等販売金額 (総額) (推計) (単位：百万円)	順位（全国）	県内 シェア率
大分県	2,521,750	18位／39都道府県	—
大分市	76,850	299位／599地域	3.0%
別府市	15,250	473位／599地域	0.6%
中津市	17,300	462位／599地域	0.7%
日田市	—	—	—
佐伯市	1,378,850	9位／599地域	54.7%
臼杵市	150,300	208位／599地域	6.0%
津久見市	458,700	74位／599地域	18.2%
竹田市	—	—	—
豊後高田市	10,600	502位／599地域	0.4%
杵築市	114,300	252位／599地域	4.5%
宇佐市	28,550	424位／599地域	1.1%
豊後大野市	—	—	—
由布市	—	—	—
国東市	94,950	271位／599地域	3.8%
姫島村	127,750	234位／599地域	5.1%
日出町	48,350	363位／599地域	1.9%
九重町	—	—	—
玖珠町	—	—	—

資料：農林水産省「漁業センサス（農林水産関係市町村別統計）」、
RESAS（農林水産省「漁業センサス」の再編集）

（６）地域資源

本県では、「おんせん県」ならではの地域資源として、日本一の源泉数・湧出量を誇る温泉を有しています。また、国東半島・宇佐地域は、世界農業遺産に認定されるほか、豊後大野市・姫島村は、急峻な地形が織りなす大パノラマが日本ジオパークに認定されています。さらに、日田市の咸宜園跡等は、「近世日本の教育遺産群-学ぶ心・礼節の本源-」として日本遺産に認定されています。このほか、歴史文化、魅力的な食、アートギャラリーなど多数の地域資源があります。



■「おんせん県」ならではの地域資源（別府市・海地獄）



■日本遺産に認定された日田市・咸宜園跡



■世界農業遺産（豊後高田市・田染荘小崎の農村景観）



■日本ジオパーク（豊後大野市・普光寺磨崖仏）

資料：大分県「安心・活力・発展プラン 2015」、日田市 HP「『咸宜園跡』の日本遺産認定について」

(7) 都市計画の現状

① 県下の都市計画区域・準都市計画区域

都市計画区域は、「一体の都市として総合的に整備、開発及び保全する必要がある区域」について県が指定するものです。

本県では、17 区域 14 市 2 町に都市計画区域を指定しており、県全体に対して面積で約 17%、人口で約 82%を占めています。

また、準都市計画区域は、既存集落周辺や高速道路のインターチェンジ周辺など、そのまま放置すれば用途の混在や不適切な農地の浸食等が生じる恐れがあるため、土地利用の整序又は環境の保全が求められる区域に県が指定するものです。

本県では、大分市本神崎地区、中津市三光地区に準都市計画区域を指定しており、今後、佐賀関地区に準都市計画区域を指定する予定です。



■大分県の都市計画区域・準都市計画区域

② 市街化区域及び市街化調整区域の現状

本県で市街化区域及び市街化調整区域が定められている都市計画区域、いわゆる線引き都市計画区域は、大分と別府※の2区域が指定されています。

また、残りの15区域については、いわゆる非線引き都市計画区域であり、全て用途地域が指定されています。

■市街化区域、市街化調整区域の決定状況

平成31年3月31日現在

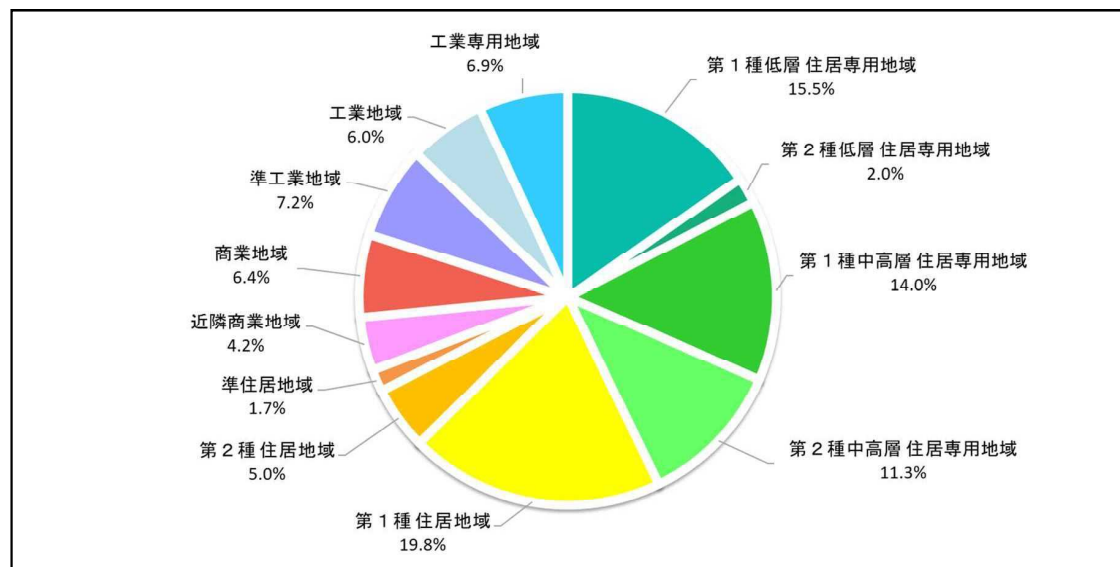
都市名	区域名	市街化区域		市街化調整区域		当初決定 年月日	最終決定 年月日	変更概要
		面積 (ha)	人口 (千人)	面積 (ha)	人口 (千人)			
大分市	大分	11,294	431.1	24,811	37.2	S45.12.25	H23.3.29	第6回 線引き見直し
別府市	別府※	2,817	120.6	5774	1.4	S45.12.25	H23.3.29	第6回 区域区分の見直し
計		14,111	551.7	30,585	38.6			

別府※ …別府国際観光温泉文化都市建設計画

資料：大分県の都市計画（資料編）

③ 用途地域の指定状況

県内の用途地域の割合は、住居系、商業系、工業系でそれぞれ69.3%、10.6%、20.1%となっており、全国平均の67.2%、8.1%、24.6%に比べて住居系及び商業系の指定率が高いものとなっています。これを用途地域別にみると、特に第2種中高層住居専用地域の多さ（+5.9%）と、重工業地域の少なさ（-3.8%）が特徴となっています。



■用途地域の面積比率

資料：大分県の都市計画（資料編）

④ 都市施設の整備状況

都市施設の整備状況について見てみると、道路では、高速自動車道、幹線街路、区画道路、特殊街路を含めた道路全体の改良率が 60.7%と概ね全国平均^(※)の 63.6%を下回っています。

公園緑地については、計画されている公園の中で既に供用されているものが 59.1%と全国平均^(※)の 69.3%を大きく下回っています。一方で、緑地を含めた公園緑地としての整備率は 58.2%と、全国平均^(※)の 56.3%を上回っています。

※全国平均値は平成 29 年都市計画現況調査結果（国土交通省）による。

■道路改良率と公園緑地の整備率

平成 31 年 3 月 31 日現在

都市名	区域名	都市計画道路		都市計画 道路改良 率[%]	公園			緑地			公園・ 緑地供用 率[%]
		計画延長 [km]	改良済 延長[km]		計画面積 [ha]	供用面積 [ha]	供用率 [%]	計画面積 [ha]	供用面積 [ha]	供用率 [%]	
大分市	大分	330.092	266.116	80.6%	712.38	394.40	55.4%	219.52	147.64	67.3%	58.2%
	佐賀関	0	0	-	0.12	0.12	100.0%	0	0	-	100.0%
別府市	別府	68.391	41.297	60.4%	136.9	78.92	57.6%	60.10	2.31	3.8%	41.2%
中津市	中津	76.575	31.985	41.8%	102.22	53.24	52.1%	0	0	-	52.1%
日田市	日田	56.86	32.778	57.7%	82.27	37.46	45.5%	0	0	-	45.5%
佐伯市	佐伯	52.416	34.642	66.1%	60.61	56.71	93.6%	2.7	2.7	100.0%	93.8%
臼杵市	臼杵	22.1	12.586	57.0%	30.36	25.28	83.3%	1.5	0	0.0%	79.3%
津久見市	津久見	29.72	23.934	80.5%	13.14	12.14	92.4%	0	0	-	92.4%
竹田市	竹田	9.12	8.047	88.2%	21.29	19.95	93.7%	0	0	-	93.7%
豊後高田市	豊後高田	5.74	7.585	48.2%	12.56	11.61	92.4%	0	0	-	92.4%
杵築市	杵築	12.54	3.11	24.8%	45.36	19.75	43.5%	0	0	-	43.5%
宇佐市	宇佐	70.01	16.559	23.7%	18.54	15.42	83.2%	0	0	-	83.2%
豊後大野市	三重	20.06	9.68	48.3%	16.94	15.87	93.7%	0	0	-	93.7%
国東市	国東	6.27	4.91	78.3%	5.02	4.83	96.2%	0	0	-	96.2%
日出町	日出	23.	13.665	59.4%	70.05	47.53	67.9%	0	0	-	67.9%
由布市	挾間	15.99	2.3	14.4%	-	-	-	-	-	-	-
	湯布院	7.61	0.04	0.5%	0.85	0.85	100.0%	0	0	-	100.0%
玖珠町	玖珠	6.19	4.499	72.7%	14	14	100.0%	0	0	-	100.0%
計		822.684	513.743	62.4%	1342.61	808.08	60.2%	283.82	152.65	53.8%	59.1%

資料：大分県の都市計画（資料編）